

2016年度 専任研究員・リサーチアシスタント個人業績／活動報告

専任研究員 辛島 理人

専任研究員として本年度上半期（9月末）まで勤務し、主に先端社会研究所の国際交流活動および共同研究プロジェクト「文化表象班」と「食研究班」のコーディネート業務を担当した。「大学院教育支援事業」として8月にオーストラリア研修を行った。自身の研究活動として関西学院大学社会学部および文学部出身者らと共著『社会的分断を越境する』（青弓社）を出版した。

専任研究員 ハサン・イーदゥル（HASAN, Eid-UI）

本年度は、共同研究プロジェクト「文化表象班」と「食研究班」の研究課題を10月から継承し、班員として同班主催の定期研究会のコーディネートを中心に班運営に従事した。先端社会研究所内の業務としては、主に「先端社会研究所紀要」の編集（英語論文・要旨の添削など）に携わった。また、「大学院教育支援事業」としては、社会学研究科との協力により、勉強会「Luncheon Meeting in English－英語で社会学－」という新たな教育企画を実施した。来年度の春・秋学期には、社会学研究科科目「先端社会講義」を英語で担当する予定であり、引き続き大学院生の支援および海外セミナーの開催など国際交流部門の充実に努める。

一方、自身の研究活動としては、共著書や査読学術論文の執筆、そして学会における口頭発表を通じて、研究成果の公表を行った。期間中（2016年10月から2017年3月まで）の研究成果は以下のとおりである。

◆著書（共著）

「地域の、地域による、地域のための『まちづくり』－大山町のコミュニティ・デザインを事例として」三好皓一 編著『地域資源とコミュニティ・デザイン』（晃洋書房、2017年3月）。

◆論文（査読学術雑誌）

“Singing Sustenance: An Ethnographic Account of Village Songs and Community Development in Postwar Rural Japan.” *Issues in Social Science*, 4(2), pp.1-20 (December 2016).

“Nature-Based Tourism and Revitalization of Rural Communities in Japan: An Ethnographic Case Study of Oyama Town.” *Journal of Social Science Studies*, 4(1), pp.140-59 (January 2017).

◆学会発表

“From Traditional Japanese to Airbnb-Style *Minpaku*: Transition, Problems and Prospects of Tourism in the Era of Sharing Economy.” *The 9th Tourism Policy Informix*, Department of Tourism Policy, Faculty of Economics, Yamaguchi University (January 21, 2017).

専任研究員 福内 千絵

本年度は、「データアーカイブ部門（現代日本文化研究）」での研究活動として、研究所発足後から現在までの調査収集データを整理しリスト化する作業をおこなうとともに、「現代日本文化共同研究会」の運営に従事した。また、メールマガジンの配信や先端研のパンフレット（英語）の作成等、広報にも携わった。自身の研究活動としては、インド近代美術史と宗教をテーマに、招聘講演や研究会における発表を通じて成果の公表をおこない、それらにおける議論を論文にまとめた（「コロニアル・インドにおける「美術」の変容－神の表象をめぐる「周辺」からの抵抗」『排除と包摂を超えて』関根康正・鈴木晋介共編、明石書店、近刊予定および *Indian Images in Trademark Registrations in Japan, Material Religion* 近刊予定）。期間中の成果は以下のとおりである。

◆講演会

「Raja Ravi Varma and Japan: Collectors and new documents」ラヴィ・ヴァルマー財団主催講演会（於：gallery-g, インド・バンガロール）、2016年5月

◆学会発表

「インド近代美術史の描くヒンドゥーイズム－「ヴェーダ」と「プラーナ」の神観念・イメージに着目して」京都市人類学研究会10月例会（於：京都大学）、2016年10月

専任研究員 村島 健司

研究所内では社会連携事業を担当し、主に『先端社会研究所紀要』の編集作業や研究会・シンポジウム等の企画・運営に携わった。

一方、先端社会研究所共同研究プロジェクトでは、「ソーシャル・ディスアドバンテージ」班を担当し、研究会やシンポジウムの運営等に携わった。その中で、これまでの自身の研究と「ソーシャル・ディスアドバンテージ」班の研究課題をリンクさせるかたちで、班内研究会（2016年度第2回先端研セミナー）で発表し、その内容を『先端社会研究所紀要』第14号に寄稿した。また、昨年度までの共同プロジェクト「中国国境域／雲南班」での研究成果をまとめ、共著書（『排除と包摂を超えて－国家のはざまに生きる』荻野昌弘・李永祥共編、明石書店、近刊予定）の出版を予定している。期間中の研究成果は以下のとおりである。

◆論文

「宗教団体の灾后重建活动与其正当性－以中国台湾地区佛教慈善团体投入的两种灾后重建为例」、李永祥・刘世哲編『安危之思－灾害人类学及防灾减灾国际学术研讨会论文集』云南人民出版社：165-175、2016年8月

「戦後台湾における日本統治期官営移民村の文化遺産化－戦前・戦後の記憶の表象をめぐる－」、好井裕明・関礼子編『戦争社会学：理論・大衆・表象文化』明石書店：171-194、2016年10月

「宗教による災害復興支援とその正当性－台湾仏教による異なる二つの災害復興支援から－」、
『関西学院大学先端社会研究所紀要』第14号：55-69、2017年3月

◆コラム

「台湾仏教の寺院として、中国語の寺院として－臨済宗大阪仏光山寺－」（コラム移住者と宗教）、『Migrants Network』189号：30-31、2016年12月

◆研究発表

「台湾における災害復興と宗教－仏教系慈善団体による復興支援と被災者との関わりを中心に－」、『関西大学人権問題研究室2016年第3回研究学習会』（於：関西大学）、2016年6月

「宗教による災害復興支援とその正当性－台湾仏教による異なる二つの災害復興支援から－」、
『関西学院大学先端社会研究所2016年度第2回先端研セミナー』（於：関西学院大学）、2016年7月

「現代台湾仏教のグローバル化とローカル化－被災地における事例を中心に－」、『宗教社会学の会：定例研究会』（於：大阪国際大学）、2016年12月

「仏教の地域社会化と祭祀圏の変容」、『日本台湾学会関西部会研究大会』（於：京都光華女子大学）、2016年12月

リサーチアシスタント 矢崎 千華

本年度は、先端研セミナーを中心に運営補助や広報用ポスターの作成等に携わった。また、本研究所のホームページの管理運営も行った。研究においては、明治時代の女性の生活について日記や聞き書き等の資料を収集しつつ、それらの分析のための方法論を検討した（下記実績参照）。さらに、データアーカイブズ作成のための研究活動にも参加した。

◆論文

「ナラティブ分析を再考する－構造への注目」『関西学院大学社会学部紀要』第125号、pp.47-57、2016年10月